

聖書の基本的諸真理

レスター・ハットソン著

ベレア・バプテスト出版社

序文

1967年12月7日木曜日の午前7時15分頃、私は時速約35マイルで、油田調査の掘削装置に正面衝突しました。神は私を生かして下さりましたが、たくさんの骨折や切り傷から回復するのに、多くの時間がかかりました。最初の4か月、私が全くベッドで寝たきりの間、神は私にこの大きな伝道—弟子化の道具の為の種を与えて下さいました。私はそこに横になったまま、考える時間が多くありました。そしてこの本に示されている、キリスト教の諸真理の進展が、私の心に具体化し始めました。私は普通の人で他人のいのちの為に手を差し出すのに用いられ得る、こんな短い学習課程の必要を、長らく考えてきました。私はたいてい事前に連絡もせず30分という時間を、何百という家庭訪問の為に既に費やしてきたわけですが、結果は大変失望していました。

次の4～5年の間、あなたがここで見出せる素材が、少しずつ合わさってくるようになりました。最初私は1時間授業を1回試してみました。それから2時間の授業を1回試してみました。あとになって4つの授業を試してみました。しかし最後の6時間の組み合わせは、主が私の為に御心に留めておられたように見えます。それは全く長い間、自分の頭にだけ、あちこちと飛んでいた事でした。それから1976年になって、主にある愛する一人の兄弟の励ましにより、私は素材の大まかなコピーを書き留めました。

その発行をよき知っておられるあなたがたは、ここでの多くの変更気づくでしょう。基本的な知識はすべて同じです。でもそれ以来の何年かに、神は私に、もっと良い配置とその話しぶりの順序正しさがある事を、確信させて下さいました。特に最後の2章は再配置されましたが、それは聖書箇所は何ら歪曲を加えていないと信じます。私は皆様がその素材を理解し、教えるのが、もっと簡単になれるのではないかと考えています。(授業計画概略で、図表に載るべき聖書箇所は肉太のタイプになっています。他のすべては教えに於て、皆様御自身の参考の為です。)

そして多くの人々がそれを教える事、それが私の目標です。これらの諸真理は私のものではありません。主のものであります。主はただそれらをこの教えの順序に配置する特権を、私に与えて下さっただけです。私は主にこの機会を感謝致します。そして私はそれを大変やさしくするよう努めてきたので、皆様はそれをただその通りに受け取り、それと取り組む事がお出来になれます。主が皆様を実のある者として下さるように。ちょうどキリストを必

要としている人々に示す業に既に入った他の人々を、そうして下さったように。

レスター・ハットソン

目次

章	主 題	ページ
	序文	
1	神の目を通して世を見る事	1
2	神との悪い関係から生じる絶望	16
3	失せた世の為に神がなして下さった事	38
4	神がなされた事をいかに手に入れるか	56
5	交わりの基本と神と共にあることの豊かな実	84
6	神の諸教会の一部として、神を礼拝し奉仕すること	97
7	聖書の基本的諸真理のトレーニング	114
8	総合的な知識と教育技術	120

* 解説ノート

この本の素材は主として家に於て、指定された時間に週1時間、6週にわたり教える為に企画されています。それでこれは伝道と弟子化の教科課程になっています。教育と技術についての内容と助言は、第1課から第6課までの中に含まれています。第7課はこの課程の目的の洞察を若干示し、人がいかに自分自身あるいは他人を鍛えて、授業を教える事が出来るかを説明しています。この授業は、この課程の教育をどのようにして教会の職務とするかについて、説明する事になっています。第8課は人々とこれらの授業をいかに組み立てるかについて語り、また大変大切な教育の技術をいくつか論じています。

あなたの手にあるのは、かくて使用するべき道具です。単なる読む本ではありません。ここでの素材は、あなたに出て行って、実際に他人と神のみことばの偉大な真理を分かち始める、身支度をしてもらう為に企画されています。もっとも、あなたが出て行く前に、あなたはこの本の中身をマスターしていなければなりません。分かち合うべき実際の諸真理だけでなく、その方法についての素材もです。まず全概念を心に詰め込むつもりで、本を全部読んで下さい。それからその素材をマスターし始めるのです。それはあなたがここで示されているような方法で、有効にそれを他人と分かち合う事が出来るようになる為です。

第1章

かみ む とみ よ み こと
神の目を通して世を見る事

「しかるにエホバ、サムエルにいひたまひけるは其容貌と身長を覩るなかれ我すでにか
れをすてたりわが視るところは人に異なり人は外の貌を見エホバは心をみるなり」
(サムエル前書16章7節)

きょうし みなさま じゅぎょう しくてき
○教師の皆様、ここにこの授業のあなたの目的があります。

1.この最初の授業はクラスの気分を整えます。提示される諸真理にむけて、学びの雰囲気
と賛意を得る為です。あなたの最初の目的は友好的で、くつろいだ雰囲気を作る事です
。あなたの生徒はあなたが学びを始める時、いつでもといっていいくらい少し不安にな
るものです。以前敬虔な人はしばしば、何かを無理に押し付けようとしてきました。生
徒はあなたが同じ事をしないと、信じていません。ですからほとんど全ての場合、生
徒の警戒心はある程度高まるでしょう。この最初の授業で、あなたが生徒の恐れや遠慮
を和らげてあげる事が大切です。言葉で保証するよりも、マナーやアプローチの仕方に
よってです。

この授業、あるいは他のに於いて、あなたの技巧や聖書の大いなる知識によって、決心
の為の圧力をかけたり、他の肉体的な戦術の力を加える事で、あなたの生徒に罪を自覚さ
せようとしてはいけません。そんな行為は無意味な告白を生じさせるだけでなく(告白
があったとしても)あなたやあなたのしている事について、生徒の信用を大いに損なわ
せる事にもなります。それではあなたが全努力を注いでも、真の成功は覚束ないでしょ
う。真正な決心(失なわれた人がキリストを受け入れる事と、信徒がキリストの主権に
本当に委ねる事による)に至る、真の罪の自覚は、真理のみことばを通しての聖霊のは
たらきによるのだ、という事を決して忘れないで下さい。ヘブル4:12が「生命あり
能力あり」と宣言しているみことばは、愛のうちに忠実に示される時、その業をなして
下さるのです。「されば信仰は聞かすることよりし、聞かすることは神のことばにより
てす」(ロマ10:17、永井訳)マルコ16:15によれば、あなたの仕事は、人が

必ず聞くようにしてあげる事です。パウロはそれをコリント前3：6-7で、霊的な種を植え耕す事とっています。しかし、つまるところ、育てられるのは神です。それのたりないものは何でも、神の御見解では「木・草・藁」（コリント前3：11-15）であるにすぎません。

あなたの生徒があなたを十分信頼して、あなたのいう事に耳を傾けてくれるまでに、警戒心を緩めそうな、その雰囲気を作りだす為、親切で、恵みある者となりなさい。そして、あなたの生徒に迫ってはいけません。生徒が、自発的にあなたに従うようにしなさい。迫っては駄目です。あなたが家に入ったらず、親しくなりなさい。あなたの生徒がどうしているか、心からの関心を表明しなさい。3～4分訪問しなさい。でも授業をする予定になっているテーブルにつくまでは、座り込んではいけません。一度あなたがテーブルについて授業を始める事を提案したら、すぐあなたの生徒に、押し付けはしない事、あなたが何らかの決心を強いようとするつもりはない事、を保証してあげて下さい。あなたは、生徒が実際ある決心をするかもしれない事を、指摘する事も出来ます。でも生徒の決心は自分自身のもので、あなたからの強制や押し付けはない事を確かめて下さい。あなたの使命は、自分の見た、そして自分自身の生活にとって貴重で、革命的なものとなっている諸真理を、体系的に、順序正しく、あなたの生徒と分かちあうことだけだと、納得させてください。あなたが分かちあう時、たぶんあなたの生徒も、その諸真理を自分のものにしたい、と思うようになるでしょう。でも生徒は、あなたからの義理とか圧力によらず、自分で発見するのです。

一度あなたがその約束をしたからには、その通りに実行しなさい。あなたの生徒が耳を傾けて聞く時、その諸真理をできるだけ、最上の、効果的で愛にあふれた、熱心なやり方で教えなさい。あなたの力の範囲内で、生徒が理解する助けとなるよう、あらゆる事をしなさい。憐れみと忍耐を持ちなさい。そうすれば、神の御霊がみことばを通してはたらかれるのを見て、あなたはきっと驚き、喜ぶでしょう。

2. 第一課の実際の教えの目的は、聖書への信頼を持つかどうか分からないあなたの生徒を

次の信仰にひっぱって行く事です。即ち聖書が本当に神のみことばであり、神のお考えを知る、私達の唯一確実な方法は、神のみことばによるという事です。この主要な目的を達成する為に、次の福次的な諸目的を、挙げた順序で追求するべきです。

a あなたの生徒が上の事を「クリスチャン信仰のうちで、根本的あるいは基本的な真理である」と理解するかどうか見なさい。

b あなたの生徒が、この授業の主要な目的は、私達の考える事柄を人間ではなく、神の視点から眺める事だと、理解するかどうか見なさい。

c あなたの生徒が、神の視点を得るには、その書である聖書を熟考する事によってのみ可能である、という事を理解するかどうか見なさい。

d もし私達が自己の立場を、聖書に示されているものに限定するならば、私達の教理は単なる宗教各派のそれではなく、聖書の教理となる事を、あなたの生徒にしっかり理解させて下さい。

e あなたの生徒が、永遠の見地からすれば、聖書教理を今考える事が大切だと理解するかどうか見なさい。

f 神が全人類を根本的に、二つの区画に分けられた事を、あなたの生徒に指摘して、この授業を閉じなさい。

これが第一課を示す時の、基本的なアプローチの仕方です。生徒の事情により、授業の話しぶりや強調するところは、かなり違って来るかもしれませんが（六つの課のそれぞれについても言えます）この視点や目的の一つ一つを確立する必要があります。

○主題、意図、適用

教師の皆様、各課の教えに於いてあなたの成功を確実なものとする為、各課の主題、意図、適用を学ぶべきです。ただ単にこの本を暗記して「まねる」ような事は、しないで下さい。これをあなたの心の中へ入れて、自分自身の言葉で言えるようにしなさい。あなたを助ける為、その情報をこの教師の手引きに於ける各課の始めに入れておきましょう。

しゅたい
主題

かみ め しめ よ み こと
「神の目を通して世を見る事」

いご
意図

なにごと せいさく み ちいっつ ほうほう みる しでん み こと せいしょ とみ
何事でも正確に見る唯一の方法は、それを神の視点から見る事です。それは聖書を通してのみ可能です。

てきよう
適用

せいし かみ たくえつ ちしき じつげいせい だれ せみ けいじ せいしょ ほん しんり じつげい
生徒に神の卓越した知識の实在性と、誰も神の啓示である聖書を離れては、真理と实在の
せきしん ほんとう え こと でき じつせん ちよくめん だれ せいしょ せいじつ
確信を本当に得る事は出来ない、という実感に直面させなさい。しかし誰でも聖書に誠実
である限り、正しいと確信出来ます。

だいいっさ ていじ
○第一課の提示

ひとたび じつさい かし ねっしん けい さいがい せうどう
一度あなたがテーブルについたら、実際の教えは熱心に始めるべきです。素材は融通がき
き、特別な状況に合わせて脚色すべきですが、ここに私の従う基本的な順序があります。
せきもんたい み わたし てじき えうてん てきとう せいしょ せしよ てきとう がい ていきよう けい
各問題に於いて、私はあなたに手近な要点、適当な聖書箇所、適当な例の提供を図るつも
りです。各教師は最も適当だと思う聖書箇所を選び、自分自身の用例のセットを開発すべ
きです。

みし み お っ し きた さいどたし
☆教えに於いて、あなたが押し付けでないアプローチの仕方をとることを、再度確かめて
から始めるように。

- 1 この課の最初の目的を説明した項をここで見なさい。
- 2 この事を確信して行いなさい。もっともあなたは授業を始めた時、既にそうしていた
かもしれませんが。

I 次に、この過程はまずクリスチャン信仰の根本的な事、あるいは基本的な事を扱うよ
う企画されている、という点を主張して下さい。

とくてきとっせい し きた
A 目的達成の仕方

- 1 あなたが聖書を全て教えようとしているのではない事を説明して下さい。それは六
回、一時間の授業では、あまりに大きすぎ、広すぎます。次の事を認めなさい。聖
書を全て教える事が出来るなどと主張しないことと、聖書について全て知っている
人は、誰もいないことです。しかしあなたが実際知っている事があり、それがこれ
からあなたの教えようとしている事である点を、説明して下さい。

2あなたが教えようとしている事は、クリスチャン信仰の基本あるいは根本を構成するものだ、と説明して下さい。

Bここで例を示して下さい。

家の基礎や枠組みがその全てを構成するものでないように、この授業もキリスト教の全てを構成するものではありません。しかしこの六回の授業は、実際家の枠組みに等しいのです。家の枠組みが出来ても、まだ多くの事が残っています。でもその時点で全体の概念や像は確立しています。同様に、一度この授業の諸真理が確立すれば、他の全ての聖書の諸真理の為の、大きな参照の枠は据えられます。

C次に、この過程がキリスト教の根本を示す為だけでなく、その諸真理をも整理する為に企画されている事、それがキリスト教の大きな像を示せる、正しい順序確立の為である事を、あなたの生徒に説明して下さい。

1一般的なキリスト教の知識を沢山持っている人は、多くいますが、その知識は乱雑になっている事を説明して下さい。

a人々はキリスト教が、信仰と行い、神と悪魔、天国と地獄、バプテスマ、教会、会員、善行を含む事を知っていますが、こうした断片的なものがどう調和しているのかほとんどつかんでいません。

bこの過程は像を示す為、それらの断片をただしい順序に整えます。

2ここで例を示して下さい。

再び家を建てる例です。完全な家の形成に必要な品をすべて備えた土地が、必ずしも家を構成するのではない事を指摘して下さい。家を持つ為には、建築資材が正しく配置されていなければなりません。それこそ、この授業がそうした根本的あるいは基本的な聖書の諸真理をもって、やろうとしている事です。

Dここは触れておくのによいところです。

1各要点はその前の要点の上に建てられます。資材は配置され、組み立てられます。

2それ故、質問は主としてその過程の資材にとどめるべきです。

a授業が進むにつれ、あなたの生徒に質問を勧めて下さい。でもそれを素材に限定して下さい。関連性のない質問を扱う時間はない事を説明して下さい。必要なら授業の後で扱って下さい。

b また多くの質問も、授業の進展に従い、自動的に答える事を説明して下さい。そんな事が起こりそうだとわかったら、あなたの生徒に、完全な答えの為にしばらく待つよう頼むのです。

3 発展させてゆく箇の事を説明し、あなたの生徒に、それに遅れないようお願い下さい。そうすれば、あなたは毎週その上に建て上げてゆく事が出来ます。

II 今あなたの生徒に、この授業の第一目的が、私達の考える全ての事柄を、神が見られるように見る事であると、説明して下さい。また神が人とは大変異なる物の見方をされる事を、説明して下さい。

A この時点で、神を函版の一番上に書き、サムエル前16：7を加えて下さい。

B この視点の確立の仕方

1 人の中では、霊的な事柄についての意見は、ほぼ人の数だけある事を指摘して下さい。ある一人の人の意見が、他のどんな人のより本質的に優れている、と考える真の理由がどこにあるでしょうか。時は過ぎ、意見は変わるのです。

2 神もまた霊的な事柄について、意見を持っておられます。しかしそれは決して変わりません。時が経つにつれ、神が常に正しい事が証明されています。これに対し、人は何度も何度も間違ってきました。ですからあなたの生徒に、ここでの目的は、意見を交換したり、人の概念を教えたりする事ではないと、告げて下さい。ここでの目的は、論点についての神の御意見が何か、という知識に至る事です。

3 神の御意見が人のよりはるかに優れている理由を説明して下さい。それ故実際に価値ある意見は、神のはるかに優れた判断基準の為なのです。人が自己の意見を形成するのは、主として自己の見たり聞いたりする事を基準にしてですが、神は、その心を知っておられます。神は過去の全て、現在の全て、そして未来の全てを知っておられます。決して御自身の見られる事、聞かれる事に基いて、意見を形成されるわけではありません。神が見られ、聞かれる事は、全て真実であると既に知っておられた事を、確かめているに過ぎません。教師の皆様、ここでサムエル前16：7に触れなさい。それは神が人の心を見られるのに対し、人がうわべを見る事を言っています。この視点について、もう一つの優れた参照箇所は、イザヤ55：8-9です。

Cここで例を示して下さい。

1サムエル前16：7の文脈は、将来イスラエルの王となるダビデの、膏そそぎを取り扱っています。人の判断の基準がうわべである事を知っておられる神は、膏そそぎをする事になっていたサムエルに、誰に膏をそそぐべきか決めないよう注意されました。御自身が彼に誰に膏をそそぐか告げると教えられました。サムエルがベツレヘムのエサイの家に着き、エサイの息子達のうちの一人を将来の王として、膏そそぎする為やってきた旨を告げた時、エサイは末の息子ダビデを、考慮の為出すことすらしませんでした。これは人の判断の弱さ、頼りなさについての、いきいきとした例です。父親さえ、自分の息子達をどう判断すべきかわからなかったのです。サムエルがエサイの七人の子の列を過ぎた時、神は彼らをすべて拒否されました。彼らは、うわべはダビデよりもはるかに将来の王にふさわしく見えたのです。でもダビデが呼ばれた時、神はサムエルに、彼を膏そそぎするよう指示されました。

何ヶ月か経ち、イスラエルはペリシテ人と戦争になりました。ダビデの三人の年上の兄弟達は、うわべはかなり王に向いていました。彼らはサウル王の軍隊に採られました。しかし一度敵と、特にゴリアテと対決した時、その三人はサウルの大軍と共に退却し、恐れて逃げました。この事については、サムエル前17：24を見て下さい。けれどもダビデ（まだ少年）が戦場にやってきて、何が起きているのか知った時、サウルの許しを求めました。そして一人でゴリアテの方へ走ってゆき、彼を殺しました。サムエル前17：48-50を見て下さい。彼は全時代を通じて最大のイスラエルの王、また将となりました。実際彼は、ユダヤ人・異邦人を問わず、歴史上の全ての将、王、指導者達の中で、最大の者です。人々が戦場でダビデに見た事は、全ての人を驚かせました。神を除いて。神はその優れた知識と判断でゴリアテよりもずっと前から、ダビデについての真実を、既に知っておられたのです。神は心を見られ、人はうわべを見ていました。神はいつでもそのようにされるのです。

例の後で、私達が皆いまだに、日々エサイのように、見る事、聞く事のうわべにより、意見を形成している事を指摘して下さい。例えば、十人の人を二つのグループ、失われている人と、救われている人に分ける仕事を与えられたら、私達はただ

それを、彼らについて知っている事、彼らが主張する事、その実績、そして私達の質問に対する彼らの答え、に基づいてやるだろうと、私はよく言います。突然イエスが現れたら、私達が救われていると思っていた人々のうち、何人かはそうではなく、その逆もしかり、という事をたぶん私達に教えられるでしょう。イエスの判断は、うわべや行いに基づいてはいません。人の心の真の状態や、イエスとの個人的な関わり（あるいはその欠如）に基づいています。

そしてあなたの生徒が、この判断の討議は現在の実生活に関わりのない事柄だと考えてしまうと いけませんから、私達は皆いつでもそういうような事をやっているんだ、と生徒に気づかせて下さい。例えば、あなたの生徒に知人（何年もそうである人と、ちょうど会ったばかりの人）十人の名前を書くよう提案してみなさい。救われているな、と思う人、そうではないな、と思う人についても、容易に挙げる事が出来るでしょう。実際生徒は、自分の知人全員について、既に潜在意識に於てそうしたのです。自分の見た事、聞いた事に基づいてです。

また神も同じ事をされましたが、うわべの行いではなく、心の真の状態に基づいてでした。

Ⅲ 次に、あなたの生徒にこう教えて下さい。私達は全ての事を知る事は出来ないし、神のようには心を見る事も出来ないのです。私達の意見が神の御意見であり、それ故正しいのだと確信出来る唯一の方法は、私達の考えや意見を、神の示されている御考えや御意見に沿って並べてみる事である、と。聖書に於て、神はその事を示しておられるのです。

A この視点の教え方

1 あなたの生徒に、私達が聖書は神のみことば、神の御考えだと主張している事を伝えて下さい。でも多くの人々がそうだと信じていない事も指摘して下さい。こうして質問は「本当ですか？ どうしてそんな事が解るのですか？」となります。生徒に、キリスト教の問題は、聖書によって実際その盛衰があるのだ、という事を認めさせて下さい。もしそれが神のみことばでないなら、私達は何もありません。もしそれが神のみことばであるなら、私達が最優先すべき事は、その語るところを知り、それに従って考える事です。

2 その基礎を確立したら、あなたの生徒に、聖書が神のみことばである事を証明する方法がある事、あなたが今からそのうちの三つを簡単に見てゆこうとしている事を告げて下さい。

注意：あなたが聖書についてのこの証明を進める時、図の上部右側の隅に関連する事柄を付け加えてゆくべきです。言葉で確かめながら、それを書き留めてゆくのです。

a 聖書が神のみことばである事の第一にして重要な証明は、その構成、あるいはそれが今あるように、完璧な調和の書となった特有の方法にあります。あなたの生徒に、次の事実を確かめる事が出来ると告げて下さい。即ち、聖書が六十六の別個の書でありながら一つである事、各書がそれ自身の主題、計画と完全な展開もっている事です。けれどもそれは単一の書であって、単一の主題（イエス・キリスト）と単一の計画（墮落した人間へのキリストの贖いのみわざ）を備えています。その主題、あらゆる型、予示、象徴の莫大な広がりにもかかわらず、それは驚くべき事に、完全に調和のとれた一つの書なのです。多くの人が試みてみましたが、誰一人としてその中に一つの誤りさえみつけた事はありませんでした。その事実に次の実感結びつけて下さい。即ち、それが十六世紀以上にわたり、四十人以上の人によって書かれた事、彼らは互いに離れて書き、また離れた世代にあって互いの知識もなく、協力の意図もなく書く事がよくあった、ということです。そうすれば、人は神のみが聖書とよばれる企画を設計し、管理する事が出来た、という点を認めなければならなくなるはずで、他のやりかたでそうなり得たという事は、絶対に不可能です。

b 聖書の預言もまた、それが神の御見解である事を証明します。聖書の約三分ノ二は預言です。何百もの聖書の預言が、既に成就しました。それは四千年にわたり正確に成就しつつあります。そしてこれまで、聖書は百パーセント正確な記録を持っています。その書き手が自らの死後何百年もたってから起こる事件と人々を知り得た、という事はありません。でも彼らはそれを百パーセントの正確さをもって書いたのです。神が聖書の著者であられ、その書き手に言うべき事をありのままに語られた、という点を除いて、そんな現象を説明する事は出来ません。

注意：教師の皆様、もしあなたが与えられた生徒と共にあって、必要があるとみたら、特別な預言とその成就の、若干の例を指摘する事が出来ます。でもそうすることによって、動きが取れなくなったり、あなたの時間をあまり多く費やすことのないように注意して下さい。

c 聖書もまた、神のみことばであると主張しています。教師の皆様、私はこの点ではたいてい、その主張の若干を引用するか、読みます。そしてそうしながら、図紙にそれらを挙げてゆきます。最も効果的であると解ったのは、次の順序ですがペテロ後1：21、テモテ後3：16、コリント前2：9-10です。鍵の言葉は「靈感」と「啓示」です。（*永井訳による）あなたは特にコリント前2：9-10から、聖書が（1）科学的な観察法（2）一般的な意見又は公的な合意による方法（3）内省的又は論理的な方法、によって生じたものではない事を、特に示す事が出来ます。神は聖書の知識（神御自身のお考え）を人々に啓示され、人々はただそれを、神の命じられるままに書き記したのです。それで聖書の完全な調和と正確さの説明が出来ます。

B 今この点を強調して下さい。

もし聖書が神のみことばであり、その証拠もそれを裏付けているなら、一度私達が自分の考えを聖書の考えに沿って並べてみると、私達の立場や意見は、聖書の立場や意見となります。こうして私達の立場や教理は、単なるバプテスト又は諸教派のものとはならなくなります。それは聖書の立場や教理となります。教師の皆様、これこそ確立しなければならない、大変重要な視点です。仕損じてはなりません。

Ⅳ次にあなたの生徒に、霊的かつ永遠の事柄について神の言われる事、考えられる事が本当に大切である、とは考えない人もいる事を示して下さい。でも生徒に、もし聖書が真理であり、今私達が見てきた通りであるなら、神の考えておられる事が何より大切だ、という事を断言して下さい。

A この視点をあなたが教える時、図の左側上部に、適切な情報を書き込んで下さい。

B この視点を確立する方法

あなたの生徒に、聖書によれば、すべての人が究極的には、対面の審きで神に自分

自身の事を述べるようになる、と告げて下さい。その審きの基準は神の御意見又は、真理です。ロマ14：11-12は、全ての人に対する神の審きを預言しています。

ロマ2：2は、それが真理によってであると言っています。そしてヨハネ17：17は神のみことばが真理であると言っています。教師の皆様、あなたはこれらの章節を引用するか、すばやく調べて、書き留めながらこの視点を確立するべきです。

C この視点の為のよい例

私が学校にいた頃、テストは確実にある事を知っていました。その知らせは、少しも大きな、予期しないニュースではありませんでした。けれども、もし教師が前もってその質問を与えておけば、私の成功への勝算はかなり高いものでした。さらにその正解までも前もって与えてくれたならば、失敗への正当な理由などなかった事でしよう。

基本的には、それこそ神が全ての人に対してなされた事なのです。神は全ての人に審き又はテストがある事を宣言されました。その書即ち聖書で、質問と正解とを与えられました。他のどの答えでもパスしない、と言われました。神が言われなかった唯一の事は、いつそのテストがあるかという事だけでした。あなたの生徒に、誰でも神の審きに備えがなくてしくじった、などという理由は全くない事を指摘して下さい。ですから、この時間を取って、神が聖書で示された基本的又は根本的な真理を、注意深く眺めることが、いかに大切であるかという理由が再度明らかになります。

V あなたの生徒に、神の御意見によると世の中にはただ二つの基本的なグループの人々がいるだけである、という事実を指摘して、この最初の授業を今終えようとしている事を告げて下さい。

A この点を教える時、あなたの図紙の神の囲いから一番下まで、縦線を引いて下さい。

さらにあなたが話す時、見本の図に示したように、「無関係」と「関係」を書き入れ「失せた者」と「救われた者」を追加して下さい。

B この部分の教え方

あなたの生徒に、次の授業で十分示す事になりますが、神は御自身との霊的な関係にある人々と対比して、世の人々を御自身との霊的な関係を持たない者と観ておられ

こと　　つ　　くだ　　かみ　　れいてき　　かんけい　　もて　　かみ　　う　　その　　よ　　かみ
る事を告げて下さい。神との霊的な関係のない者を、神は「失せた者」と呼ばれ、神
れいてき　　かんけい　　その　　かみ　　すく　　その　　よ
との霊的な関係のある者を、神は「救われた者」と呼ばれます。あなたの生徒に、次
じゅぎょう　　かみ　　か　　た　　く　　さく　　ひとびと　　じゅぎょう　　じゅう　　せつめい　　こと　　つ　　くだ
の授業で、神の見られるこの二つの区画の人々を、十分調べ、説明する事を告げて下
さい。この点をもって第一課を終える事を、あなたの生徒に伝えて下さい。

○あなたが去る時に。

- 1 あなたの生徒に、函に対応できるように、そして次の授業の為にとっておくように、
わが　　くだ　　せいと　　て　　よくしゅう　　ため　　ずりょう　　こと
お願いして下さい。それはあなたの生徒には手ごろな復習の為の図表となりえる事、
まいしゅう　　ついせ　　こと　　せつめい　　くだ　　あな　　ずりょう　　つか　　まいかいさいし
あなたが毎週それに追加してゆく事を説明して下さい。同じ図表を使えば、毎回最初
はじ　　て　　ま　　ふせ
から始めなければならない、という手間を防ぎます。
- 2 あなたの生徒に、次週も同じ時間に来て、第二課「神との悪い関係から生じる絶望」
あし　　わす　　いただ　　あじ　　よこく　　くだ
を教えるつもりなので、忘れないようにして頂きなさい。短い予告をして下さい。
- 3 生徒を教会へ招きなさい。
- 4 立って玄関まで進み、親しみを込めてさよならを言って下さい。

主題

神の目を通して世を見る事

意図

何事でも正確に見る唯一の方法は、それを神の視点から見る事です。それは聖書を通してのみ可能です。

適用

生徒に神の卓越した知識の实在性と、誰も神の啓示である聖書を離れては、真理と实在の確信を本当に得る事は出来ない、という実感に直面させなさい。しかし誰でも聖書に誠実である限り、正しいと確信出来ます。

暗記すべき聖書の諸節

サムエル前 16 : 7 「しかるにエホバ、サムエルにいひたまひけるは其容貌と身長を視るなかれ我すでにかれをすてたりわが視るところは人に異なり人は外の貌を見エホバは心をみるなり」

コリント前 2 : 9 - 10 「録して『神のおのれを愛する者のために備へ給ひし事は、眼いまだ見ず、耳いまだ聞かず、人の心いまだ思はざりし所なり』と有るが如し。然れど我らには神これを御霊によりて顕し給へり。御霊はすべての事を究め、神の深き所まで究むればなり」

ロマ 14 : 11 - 12 「録して『主いひ給ふ、我は生くるなり、凡ての膝は、わが前に屈み、凡ての舌は、神をほめたたへん』とあり。我等おのおの神のまへに己の事を陳ぶべし。」

ロマ 2 : 2 「斯る事をおこなふ者を罪する神の審判は真理に合へりと我らは知る」

ヨハネ 17 : 17 「真理にて彼らを潔め別ちたまへ、汝の御言は真理なり。」

概 略

- I 多くの根本的又は基本的な聖書の諸真理を順序正しく提示する事
- A 聖書をすべて教えようとしなさい。ただ基本だけ。
- 例：家に対する枠組みのように、すべてを語らないけれども、多くを語ります。
- B 基本的な諸真理は、系統的な順序で配置されます。
- 例：建築資材は、家を形成する為に配置しなければなりません。
- 過渡的な考え：系統的な接近の仕方
- II すべての授業に於て、私達は物事を神がなされるような方法で見ると努めます。
- A 人々の間には多くの意見があります。そしてそれは変化します。しかし神の御意見は決して変わりません。
- B 神の思考の基準は人と異なり、人よりはるかに優れています。サムエル前16：7
- 例：ダビデ王の膏注ぎと行為。人々の間の動向は続きます。
- 過渡的な考え：神の御意見は心の真の状態に基づいています。
- III 神が考えておられる事の知識は、聖書を通してのみ可能です。
- A 聖書を知る方法は、神のみことばによります。
- 1 構成 2 預言 3 主張：ペテロ後1：21；テモテ後3：16；コリント前2：9-10
- B もし私達が聖書の立場に留まるなら、その教理は聖書の教理となります。
- 過渡的な考え：バプテスト又は教派ではなく、聖書の教理。
- IV 神が考えておられる事が、本当に大切なのです。
- A すべての人が、審きに於て神と直面します。ロマ14：11-12
- B 神の審きは、その真理のみことばによります。ロマ2：2
- C 聖書は神の真理のみことばです。ヨハネ17：17
- 例：学校での予告されたテスト
- 過渡的な考え：神が考えておられる事を、注意深く眺める事の大切さ
- V 神は世を二つの基本的な区画に分けられました。
- A 無関係。失せた者
- B 関係。救われた者
- 結論的な考え：あなたは次の授業で、詳しくこの事を説明します。その主題は「神との悪い関係から生じる絶望」です。

ロマ14:11-12

ロマ2:2

ヨハネ17:17

神

サムエル前16:7

1 構成

2 預言

3 聖書の主張
 ペテロ後1:21
 テモテ後3:16
 コリント前2:9~
 10

無 関 係

関 係